

第 1 回港湾行政マネジメントに関する研究会議事概要

○日時：平成16年10月14日（木）10：00～12：00

○場所：大手町サンスカイルーム（朝日東海ビル27階）

○主要意見

- ・ 港湾行政マネジメントには、アカウントビリティの向上と行政内部の執行業務の効率化という2つの側面があり、政策と現場とのリンケージが必要である。港湾行政における本研究会のような取り組みは、諸外国でもまだ例がなく、見習うモデルがないという状況である。
- ・ 港湾関係のプレーヤーごとの関係がわかる相関図、それぞれが港湾に求めているサービスなど整理してはどうか。特に顧客主義というのは大事であり、港湾にとっての顧客やステークホルダー(利害関係者)は誰なのかを整理すると目標がわかり易くなる。また、物流、環境など港湾の業務のフェーズとしてどういうものがあるか、さらには地方レベルの目標が中央の目標にどう寄与するかなどの整理もあるとよいのではないか。
- ・ アウトカム指標については、「わかり易いか」、「納得できるか」など、関係者、国民などを巻き込んでいく必要もある。指標の切り口として、「オペレーション」、「マネジメント」、「社会インパクト」という3つの階層レベルでの指標が想定されるのではないか。
- ・ 指標の検討などにあたっては、SCM（サプライチェーンマネジメント）など、物流分野における高度化なども念頭におき、戦略的な方向性を出せるような指標の検討も必要ではないか。また、全国ベースの指標とは別に、現場でやりたいと思っていることについて現場独自のアウトカム指標が出てきてもよい。
- ・ 指標の設定・評価にあたっては、例えば他港との貨物量の競合などについても考慮する必要があるのではないか。
- ・ インセンティブを付与するための評価指標は非常に大切であるが、1つの目標に1つの指標では、その指標のみの達成を目指すといった弊害も生まれかねないので留意が必要である。
- ・ 静岡県では、県全体の指標としての総合計画指標、さらにその部局単位の管理指標を設定し、公表するとともに、達成度の報告などもおこなっている。指標の達成度に関しては、統計の制約などもあり、進捗状況をうまく捉えきれないケースもあるので注意が必要である。
- ・ 三重県の評価では、目標達成のためにいろいろな施策がどう役立っているかという膨大なロジックモデルを構築し評価を行っている。そういう努力がないと政策評価そのものの意義がなくなる。